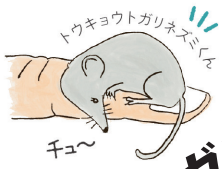

トガリネズミラヴァー 六田晴洋の 私たちのご近所さん

VOL. 5

「人と生き物、生き物同士の距離」

家のすぐ近くに多くの野生動物がいる生活。白糠町に移住して丸2年が経ちましたが、ようやく慣れてきたところです。みなさんにとっては当たり前の光景なのだと思いますが、私にとってはとても新鮮でした。

身近に野生動物がいる日常

2年前まで横浜や東京に住んでいた私にとって『野生動物を見る』というのは少し特別なことでした。車で2時間ほど移動しなければ、シカさえ見ることはできなかったのですから。それが今では家のすぐ近くで、それも普通に生活をしている中でエゾシカやタンチョウ、オジロワシなどと出会うので、移住直後はまるで別世界に来たかのような感覚でした。最初は彼らと出会うたびに「おぉ〜!!」と興奮していましたが、最近は「お、今日もいるね〜」ってくらいには慣れました。そりゃ、興奮できた方が楽しいわけですが、それはまだ私に旅行気分が抜けきっておらず、『ここで生活している』という実感が少なかった証拠なのかもしれません。

並んで食事をするエゾシカとタンチョウ

すれ違うキツネとタンチョウ

生き物たちにとっても当たり前

それだけ多くの生き物が身近にいれば、生き物同士が出会う場面に遭遇することも多々あります。エゾシカとタンチョウ、タンチョウとキツネ。それぞれの距離がどんどん近づいていくと「え、どうなるんだろう?」と見ているこちらとしてはハラハラするもの。でも意外なことに、生き物たちはお互いに無関心。黙々と自分のやるべきことに集中していました。エゾシカとタンチョウは、はじめ別々の所で地面の何かを食べていました。ところが夢中で食べ進んでいくうちに、ついには並んで食事。これには何だかおかしくなってクスッと笑ってしまいました。そしてどの生き物も私に無関心。生き物たちにとっても、人間を含む自分以外の生き物が身近にいることは当たり前で、いちいち騒ぐことではないのだと気付きました。これが、自然豊かな町で暮らす生き物たちの姿なんだなぁ。今月は、私もその一員として受け入れてもらったような気がしてうれしかった、思い出の2枚の写真です。

PROFILE
六田晴洋

ろくたはるひろ　1986年生まれ。2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。
E-mail rokuta@six-h.com